

3 故郷への思いを描き続けた画家 岩橋 英遠

【小学校第6学年の実践】

1 主題名

故郷を愛する心【C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】

2 教材

故郷への思いを描き続けた画家 岩橋 英遠（北海道版道徳教材（小学校高学年用））

3 主題設定の理由【指導観】

(1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

我が国や郷土の伝統や文化を尊重し、それらを育んできた我が国や郷土を愛する心をもつことに関する内容項目である。自分が生まれ育った郷土は、人生を送る上で心のよりどころとなるなど大きな役割を果たすものであり、生きる上での大きな精神的な支えとなるものである。郷土を愛する心は、郷土での様々な体験など積極的に主体的な関わりを通して育まれていく。これらの体験等をもとに、国や郷土を愛する心について考えさせる指導が大切である。郷土の伝統や文化を大切にすることは、過去から現在に至るまでに育まれた郷土の伝統と文化に関心をもち、それらと現在の自分との関わりを理解する中から芽生えてくるものであり、それが郷土を愛する心へとつながる。

第6学年の指導に当たっては、我が国の国土や産業、歴史などの学習を通して、受け継がれている我が国の伝統や文化を尊重し、さらに発展させていこうとする態度を育てていくことが求められる。本時においては、異なる角度から郷土のよさに気付かせることを通して、郷土に親しみをもち郷土を愛する心情を育てていく。

(2) 児童の実態【児童観】

郷土に親しみをもち郷土を愛する心情を育てるため、道徳科以外では、次のような指導を行っている。

①国語科「随筆を書こう」

国語科では、砂川市について随筆を書く学習を行っている。書き上げた随筆を読み合う活動を通して、自分がそれまで気付かなかった砂川市の伝統や文化に気付いたり、普段は意識していなくても砂川市に住んでいる家族や友達、地域の方々が大きな心のよりどころになっていることを認識したりする児童の姿が見受けられた。

②朝や帰りの短学活での指導

短学活の指導では、郷土の伝統や文化、先人の努力を知り、郷土をよりよくしていこうとする態度を育てるため、砂川市の様々な祭事において、伝統や文化について話をしている。例えば、9月に開催される「北海道スイーツライド in 北&中そらち」の際には、空知が炭鉱で栄えていた当時、砂川駅が交通の要として坑夫や工場で働く人々であふれ、肉体労働に励む人々の疲れの癒しとして菓子業が重宝され発展していったことを話した。児童は、菓子屋が市内に多いことに加え、その背景に炭坑とそれをもてなした地域の人々の姿があったことに気が付いた。

これらの取組を通して、郷土に親しみをもち、郷土を愛する心情が育ってきていることから、本時の学習では、岩橋英遠の生き方に触れながら、郷土愛について掘り下げて考えることにより、道徳的価値の自覚を深めたい。

(3) 教材について【教材観】

児童に、ふるさとの新たなよさに気付かせるために、英遠が「江部乙は小さなまちなんかではありません。このまちは私にとって、とても大きなふるさとです。」と述べる場面を中心に話し合い、価値理解・他者理解・人間理解を深めさせる。

本時においては、中心的な発問とそれを効果的にするための基本発問を次のように設定する。

1 「◎中心的な発問」の場面

→英遠の生き方で素晴らしいと感じるところを問う

- ◆意 図：「とても大きなふるさとです。」と話す英遠の生き方を客観的に考えさせ、異なる角度から、ふるさとのよさやふるさとを愛することについて価値理解を深めさせたい。

英遠の思い：自分が生まれたまちを小さく見せたくない、遠く離れていてもふるさととは身近にある、ふるさとのよさに気がきいつまでも大切にしたいという思い。

2 「○基本発問」の場面

→英遠の母校の中学生が、姿勢を正し、英遠に深々と頭を下げたとき

- ◆意 図：英遠の抱くふるさとへの思いや誇りを考えることは難しいと想定されることから、母校の中学生の立場からふるさとについて考えさせる。母校の中学生は、英遠の言葉を聞いたことで、ふるさとへの考え方に影響を受けており、この学習を行う児童にとって自我関与しやすいと考える。中学生が「何に気付いたか」を考えさせることを通し、英遠の「とても大きなふるさとです。」という言葉の意味を考えられるようにするなど、郷土を愛することについて、多面的・多角的に考えさせ、他者理解や人間理解を深めさせたい。

英遠の思い：江部乙にはよさや思い出がたくさんあり大きな存在になっている、小さい頃の原風景は自分の生きる支えになっているという思い。

4 ねらい

岩橋英遠のふるさとへの思いや誇りを考えることを通して、目には見えない自分のふるさとのよさに気づき、郷土を愛する心情を養う。

5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導 入	● 自分のまちのよさを思い浮かべる。 ○ 自分のまちのよいところは何でしょう。 ・北海道子どもの国は遊ぶところがたくさんある。 ・砂川ハイウェイオアシスにはたくさんの人が訪れる。 ・スイーツロードに有名なお菓子屋がいくつもある。	・ねらいとする道徳的価値への方向付けとして、自分のまちのよさを想起する場を設ける。	【工夫①】 ・本時の主題に関わる問題意識をもたせることで主題に対する児童の興味や関心を高め、自己を見つめる動機付けを図る。
展 開	● 資料「故郷への思いを描き続けた画家」を読み、話し合う。 ○ 母校の中学生は、どのような思いで、姿勢を正し、英遠に深々と頭を下げたのでしょうか。 ・岩橋先生のような有名な画家でも、ふるさとは大きな存在なんだ。 ・岩橋さんは江部乙のよさを分かっているから「大きい」と言ったんだと思う。 ・ふるさとの大切さは、その人の心が決めるものなんだ。 ◎ 英遠の生き方で素晴らしいなと感じたところがありますか。 ・ふるさとのために、自分にできることを実行しているところ。 ・遠く離れていても、ふるさとを大切に思い続けているところ。 ・ふるさとのよさに気づき、いつまでも大切にしようとしているところ。	・中学生の立場から英遠の発言の意味を考えさせ、ふるさとについて多面的・多角的な見方ができるようにする。 ・英遠のふるさとへの強い思いについて話し合い、自分のまちのよさについて新たな見方ができるよう働きかける。	【工夫②】 ・登場人物の心情理解にならないよう、母校の中学生の立場に共感させ、中学生が何に気付いたかについて、多面的・多角的に考えさせる。 【工夫③】 ・読み物教材全体を通じて、道徳的価値の理解が図られるよう、場面を問うだけでなく、主人公の生き方や人物そのものを問う発問を工夫する。
	● 自己をみつめる。 ○ 自分のふるさとのよさは何でしょう。また、よさを大切にしていくために、自分が大事にしたいことは何でしょう。 ・住んでいる人が優しいなど、今まで気付かなかったよさがある。これからも違うよさを見付けたい。 ・自分が育ったまちだから、安心できる。安心できるまちを守り続けたい。 ・自然が豊かなところ。将来、どこで暮らすことになっても、ふるさとのよさを忘れないようにしたい。	・自分の生活や生き方を振り返り、自己理解につなげる。 ■ 目には見えない自分のふるさとのよさに気づき、郷土を愛することの大切さについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。	【工夫④】 ・導入の内容と関連させながら、自分の生活を振り返ることを通して、自己の生き方について考えを深められるようにする。
終 末	● 教師の説話を聞く。 ※教師のふるさとに対する思いや誇りについて話す。	・目には見えない自分のふるさとのよさに気づき、郷土に親しみを持ち郷土を愛する心が育まれるようにする。	

